

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300020		
法人名	医療法人 英知会		
事業所名	グループホーム グッドスマイルズ		
所在地	山口県山口市桜島2丁目9番32号		
自己評価作成日	平成30年10月19日	評価結果市町受理日	令和元年5月20日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内
訪問調査日	平成30年11月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・当施設では、併設の医療機関の主治医・看護師と密に連携をとり、入居者の体調管理を常に行い、緊急時にも速やかに対応するように努めている。
 ・お一人おひとりに応じた対応、「その人らしさ」「その方にとっての当たり前」を大切にしている。入居者が出来る事はしていただき、出来ない事に職員が寄り添う事を理念に掲げている。
 ・各ユニットで介護の重度化に応じた、心身機能の維持を心掛けている。身体的にはラジオ体操、歩行訓練、口腔体操等。精神的には脳活性ブリントのレクリエーションや音楽鑑賞などに取り組んでいる。
 ・食事の面は、開業当初から市場直送の新鮮なお刺身を毎昼食にお出しして、好評を得ている。
 ・外部からリハビリスタッフ、歯科医に訪問頂き、生活機能の向上、口腔ケアのマネジメントのために連携している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は利用者の希望やしたいことを大切にケアに取り組み、利用者一人ひとりの思いを理解しようと、良好なコミュニケーションを図っておられます。今年は管理部長や3事業所(グループホーム、デイサービス、居宅事業所)の管理者、全職員で検討して「身体拘束にかかわる指針」を作成され、全職員が参加する身体拘束廃止委員会で事例検討をされるなど、計画的に学びを深めて身体拘束をしないケアに取り組んでおられます。家族に「重度化対応の指針」に基づいて事業所のできる対応について説明したうえで、実際に利用者が重度化した場合は家族や主治医、訪問看護師、職員が話合ってケアの方針を決めておられ「看取りに関する指針」により「看取り介護計画」を作成され、関係者と協力して看取りの支援に取り組んでおられます。職員は今後の介護に活かすよう、「看取り介護計画」とそこで行ったケアを振り返られると共に、記録の充実に努めておられ、資質の向上とケアの改善につなげておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 自己	外部 外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	増やしたり、トイレに毎回付き添うように改 ざんしている	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理 念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して 実践につなげている	当ホームの理念に基づき、今までの暮らし方 を続けていただけるように「その方らしさ」を 大切に、職員が寄り添うようにしている。ま た、地域との交流を図ることを心掛けている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業 所理念をつくり、事業所内に掲示し、職員間 で理念を共有して実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に交 流している	利用者同伴で、近隣店舗へ買い物や、散 歩、周辺住民の方々との日常的な交流。地 区の盆踊り、着物喫茶等の行事に参加させ ていただいている。地域の方が地区の行事 のポスター等を持ってきてくださっている。	自治会に加入し、地区の盆踊りに利用者と職 員が一緒に参加したり、近所の人草刈りの 時はお茶を出している。県立大生が車で接待 する着物喫茶に参加している。近くの保育園 児が来訪しクリスマス会で歌や遊戯を披露し ている。毎月の笑いヨガ、ギターや琴の演奏、 日本舞踊、歌謡、手品などのボランティアが 来訪している。週末のSL走行を地域の人と 一緒に見物したり、近隣の散歩や商店での買 い物時に挨拶を交わすなど、地域の人と日常 的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の 人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて 活かしている	毎月発行している施設だよりを、法人内や、 屋外掲示板に貼り、地域の方々の理解を 図っている。 相談に来られた地域の方に包括等への手 順を説明している。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評 価を実施する意義を理解し、評価を活かして具 体的な改善に取り組んでいる。	自己評価を職員それぞれで取り組み、項目 の内容についての理解を行っている。ケア の課題、改善点を会議や申し送りで話し合 い、レベル向上に努めている。	自己評価は、全職員に評価のための書類を 配布して記入してもらい、管理者がまとめてい る。外部評価結果は全職員に回覧し、運営推 進会議で報告している。	・評価の意義や項目の理解 ・目標達成計画の活用	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、 評価への取り組み状況等について報告や話し合 いを行い、そこでの意見をサービス向上に活か している	2ヶ月に1回定期開催。入居者の状態・現状 や、サービス提供、内部研修の報告などをして いる。半年に1回、デイひかりと合同で実 施している。	2ヶ月に1回、自治会長、地元社会福祉協議 会、消防団長、市担当者、大学社会福祉学 部講師、薬剤師がメンバーとなって開催し、 内2回は隣接事業所と合同で開催している。 利用者の状況、活動報告などを行って意見 交換し、ボランティアの情報を得て来訪につ なげるなど、そこでの意見をサービス向上に 活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	増やしたり、トイレに毎回付き添うように改正している
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営上の不明な点や確認事項など必要に応じて、市の担当者に連絡・相談をして明確にしている。また、地域包括支援センターの職員とも運営推進会議等で情報交換や山口市の情報を獲得している。包括からの入居空き状況等の問い合わせに誠意を持って対応している。	市担当者とは、運営推進会議時や介護認定更新時に直接出向いたり、電話などで相談し、助言を得ているなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、法人を通して事例相談や情報交換を行い、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止に関わる指針を作成し、2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会会議を開催している。 スピーチロック等への意識付けにも取り組んでいる。 玄関施錠は、インフルエンザ・感染症等、不審者対策として、玄関に掲示してインターホン対応させていただいている。	今年、管理部長を中心に3事業所(グループホーム、ディサービス、居宅事業所)の管理者や全職員で「身体拘束にかかわる指針」を作成している。内部研修で計画的に学び、2ヶ月に1回、全職員が参加する身体拘束廃止委員会を開催して、該当者の確認や事例検討をしている。夜勤などで会議に参加の職員には個別に伝達している。玄関は施錠しているが、外出したい利用者には職員や家族、友人と一緒に外出したり、話を聞いて気分転換の支援をしている。スピーチロックで気になるところは管理者が指導している。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を行い、虐待にあたる項目を職員間で理解し、虐待防止への意識を高め、見過ごされる事が無いように注意を払っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見人制度を利用されている入居者がおられた。今後において、この制度を利用したい御家族もおられるため、社協等と連携し橋渡しをしている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の契約締結には時間を十分にかけて、入居者ご家族に不安なく入居していただけるよう努めている。また、解約時は今後の流れ等を説明し納得して頂けるように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	増やしたり、トイレに毎回付き添うように改正している
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情対応体制を契約書に掲載し、ホーム玄関内に掲示し明確にしている。また、苦情受付時に速やかに処理手続きを行う事を定め、解決と今後のケースや運営に生かすことに努めている。	相談や苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に重要事項説明書で家族に説明している。面会時や運営推進会議時、年1回の家族会、受診支援の時などに家族からの意見や要望を聞いている。動きのある生活をさせたいという要望があり、個別機能訓練支援計画を立て、散歩の回数を増やしたり、トイレに毎回付き添うように対応しているなど、意見を反映させている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り、ケアカンファレンス、月例会議などの場を活用し、職員間の意見交換・情報交換等を行い、記録に残している。各ユニットに申し送りノートを用意し、活用している。	管理者は2ユニット合同の月例会議や月2、3回のケアカンファレンス、毎日の申し送り、日常業務の中で職員の意見や提案を聞いている。月例会議の議事録は全職員に回覧したり、申し送りノートで意見を共有している。職員の意見や提案からトイレに棚を設置して必要物品を置くようにしたり、利用者の居室の洗面台に整理棚を設置する等、意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自に適切な評価が出来るように面接を行っている。また、労働基準法を遵守し、専属の労務士による人事考課、給与査定を行っている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回の内部研修の実施。外部研修では、実践者研修等に参加する機会を通じて、職員の自己研鑽の機会を作る。また、新人職員には担当が付き、指導し、早期に業務に慣れ環境に適応できるよう配慮している。	外部研修は、管理者が管理者研修と中堅職員研修を受講している。法人研修は、3事業所の管理者が年間計画を立て、月1回、接遇、身体拘束、プライバシーの保護、誤嚥、嚥下、感染予防、災害対応などについて、職員が講師となって実施している。新人はチェック表に基づいて研修し、日常業務の中で先輩が一人を担当して指導している。	・外部研修への参加の機会の確保 ・内部研修の充実
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入している。ハートホームよりリハビリスタッフに来ていただき、生活機能向上の為に個別訓練計画書の作成に協力していただいている。その際に、安全な歩行等への助言をしていただいている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	増やしたり、トイレに毎回付き添うように改ざんしている	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時ご家族にお願いしているセンター方式の生活歴等の情報や、入居後、生活習慣やその方の思いなどの情報を職員が細かな声掛けで得、共有する事で、その方らしい環境づくりが速やかに整うように配慮している。			
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に面会を拒みたい人等、ご家族の事情を伺い、配慮している。面会時には責任者が入居者の日常などを伝えている。必要に応じて電話連絡し、近況を伝えている。ご家族の不安や要望等を聞かせていただき、相互のコミュニケーション構築に努めている。			
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者ご自身、ご家族、主治医、ケアマネジャーその他関係者等から情報で包括的に検討し、その方らしい暮らしが出来るように努めている。			
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と共に、洗濯物干し、たたみ、食事の盛り付け等の家事を行っていただいたり、時には入居者ご自身に委ねる事で、支え合っているという関係を築くように努めている。			
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の近況を毎月1回発行の入居者だより、お手紙でご家族に知らせている。また、必要に応じて、電話をかけたり、面会外出時にお話しする機会を作っている。本人が書いた年賀状や暑中見舞いをご家族に送っている。			
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会、墓参り等への外出はご家族と連絡を取ったり、今まで行かれていた教会へ行かれる為の支援、馴染みの美容室へ通い続けるための支援を行っている。外泊外出などで、入居者の以前の繋がりが途絶えないよう支援に努めている。	家族の面会や親戚の人、友人、知人の来訪がある他、年賀状や暑中見舞い、電話での交流を支援している。友人の迎えで日曜ごとに教会の礼拝に行く利用者もある。馴染みの美容室の利用や商店での買い物、家族の協力を得ての法事への参加、墓参り、外出や盆、正月の自宅外泊など、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	増やしたり、トイレに毎回付き添うように改正している
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクの参加や家事作業を一緒に行う事や、ソファ等の配置し近距離での会話、仲の良い入居者を隣席にするなど配慮し、気軽にコミュニケーションが取られるようにしている。また、トラブルは必要に応じて職員が仲介し、穏やかな関係の継続に努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りを実施したご家族については、その後、医院の患者さんで来られる事があり、会えば挨拶をして、思い出話をしている。施設利用からデイサービスに戻られた方とデイサービス等で話をする機会がある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の中の入居者の発言などから本人の思い、希望を聴き、また、意思表示が困難な方には表情や言動から思いを汲み取るよう努め、職員間で意見交換や情報を共有し、反映に努めている。	入居時に本人や家族から基本情報を聞き、センター方式の「私の姿と気持ちシート」を活用している。「24時間生活変化シート」を活用し、日々の関わりの中での、利用者の声かけ時の表情の変化や仕草、発した言葉などを「介護記録」に記録してカンファレンスで話し合い、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は声かけ時の表情の変化などを読み取り、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を導入。入居者本人から聞くこと、また、入居時にご家族に記入していただく事、その後も面会、電話等の機会などで、それまでの暮らしや入居までの経緯等を把握し、情報を収集している。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の健康管理表記録や、介護記録等で常に心身の状態を把握し、申し送り時などで職員間で情報を共有している。身体的な変化は訪問看護師に報告し、医療との連携を徹底している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	増やしたり、トイレに毎回付き添うように改正している
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が本人の意向や困り事を聞き、ケアカンファで計画作成者、職員が検討、「その方らしい」ケアプラン作成を行う。センター方式から24時間1週間観察記録し、プランへの反映に活かしている。医療的立場から主治医や訪問看護の意見も常に取り込んでいる。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心となって利用者や家族の思いや意向、主治医や訪問看護師の意見を参考にカンファレンスで話し合い、介護計画を作成している。利用者を担当している職員が月1回、介護記録をチェックしてモニタリングを行い、6ヶ月毎に計画の見直しをしている。利用者の状態の変化に応じてその都度見直し、現状に即した計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の介護記録、毎月のバイタルチェック表、プランの達成状況の有無と実施の詳細を記録し、評価している。また、プランの見直しに反映させている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同一建物のデイサービス利用者であった入居者にとって馴染みの場所であるデイの関係が続ける事。又、他の入居者にも声をかけ、デイの行事に参加することで、楽しさの共有に努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元で生活された方は、近隣への散歩や馴染みの店等への買い物へ行かれたり、又、教会信者の方は教会に出かけたり、教会関係者との往来繋がりを通して、信心を継続されている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に入居者ご自身、ご家族の希望にてかかりつけ医を選択して頂いている。(現在は全入居者、協力医療機関を選択されている)協力医療機関の訪問看護師が週1、2回、その他必要時には即座に対応してもらえる体制が出来ている。	利用者全員が協力医療機関をかかりつけ医としている。月2回、協力医療機関や訪問診療で定期受診し、他科は家族の協力を得て受診支援をしている。歯科は月2回訪問診療がある。受診結果は介護記録に記録して受診報告書や申し送りノートで情報を共有している。家族には電話で報告している。協力医療機関の訪問看護師が週1回健康管理をしている。緊急時には訪問看護師や協力医療機関と連携して対応するなど、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	増やしたり、トイレに毎回付き添うように改正している
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から医療連携体制を整え、協力医療機関の医師、看護師へ入居者の状態の連絡を密にし、必要時の対応や受診に速やかに対応できるように徹底している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、協力医療機関の訪問看護師、介護職員が必ずお見舞いに行き、状況の把握に努め、病院関係者と密な連絡を心掛けている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化対応の方針に基づいて説明し、同意の上署名捺印をいただいている。実際に重度化した場合、ご家族、主治医、訪問看護師、関係者等で話し合い、医療機関への移設を含めて、方針を共有し支援に努めている。看取りを実施している。	契約時に、重度化した場合に事業所のできる対応について「重度化対応の指針」に基づいて家族に説明し、同意を得ている。実際に重度化した場合は家族や主治医、訪問看護師と話合って、医療機関への移設も含めて方針を決めて共有して支援に取り組んでいる。看取りの意向があれば「看取りに関する指針」により介護実施計画書を作成して、チームで支援に取り組み、カンファレンスでケアの振り返りをしている。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故発生時はミーティングし、記録に残し、再発防止に取り組んでいる。特に、服薬ミス防止のため、配薬、与薬時のダブルチェックを行っている。 内外の研修で実践的に取り組む。	事例が生じた場合は、ヒヤリハット・事故報告書にその日の職員が記録して全職員に回覧し、月例会議で再検討している。誤薬防止のため配薬、与薬のダブルチェックを行っている。法人研修で誤嚥時対応や救急対応について学んでいるが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとは言えない。	・全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけるための定期的訓練の充実
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を、昼夜それぞれ想定し、実施している。運営推進会議で消防団長の方からの助言をいただいて、協力体制強化にも努めている。	消防署の協力を得て、敷地内の他施設と合同で年1回、事業所単独で年1回、昼夜の火災を想定した消火、通報、避難訓練、避難経路の確認を利用者も参加して実施している。運営推進会議で消防団長などの助言を得て、風水害時の土嚢の積み方や通報の重要性について学んでいる。運営推進会議で地域との協力体制について検討しているが、訓練に地域の人の参加はなく、地域との協力体制ができていないとは言えない。	・地域との協力体制の構築

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	増やしたり、トイレに毎回付き添うように改正している	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員1人ひとりが入居者の尊厳に配慮した呼称や言葉掛けをするようにしている。尊厳に反したと思われる場合への目配せも常に行っている。 また、居室への入室はノックや本人の許可を得。プライバシーの保護に努めている。	職員は法人研修で接遇やプライバシーの保護について学び、利用者一人ひとりの人格を尊重し、尊厳に配慮した言葉かけや対応をしている。不適切な対応があった場合は、管理者が指導したり、職員同士で注意し合っている。個人情報の取扱いに配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者自身の自己決定できる機会を多く設け、ご自身の思いや希望が表しやすい環境づくりに努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	介助の際、ご自身の意向を伺い、意に沿わない、拒否が見られる場合は強要しないようにしている。活動・休息のリズムもご自身の意向や体調に合わせた対応を心掛けている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な方は馴染みの美容室へ外出されたり、月1回の散髪訪問の機会を利用して、その方らしいおしゃれができる楽しみを支援している。衣類を選ぶ時も、好まれる物を選ぶ配慮をしている。寝癖等あれば髪の毛をブラッシングしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	増やしたり、トイレに毎回付き添うように改正している
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を職員だけで行わず、テーブル拭き、盛り付け、箸配り等をしていただく。おやつ作りのレクを通して、料理の楽しみや喜びを支援している。	副食は配食を利用して、利用者の好みを把握して食品交換を行っている。ご飯は事業所で炊き、利用者の状態に応じて、自分で食べやすい小さめのおにぎりにする、ソフト食にする、とろみをつける、食欲低下時には素麺などの麺類を提供する、使いやすいカトラリーを使用するなど工夫している。利用者はテーブル拭き、盆拭き、下膳、食器洗いなどできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルで同じものを会話を楽しみながら食べている。平日の昼食には刺身を提供したり、季節の行事食(おせち、ひな寿司、流しそうめん、クリスマスケーキ、刺身の盛り合わせ、年越しそばなど)、おやつづくり(サツマイモのきんつば、練切、誕生ケーキのデコレーションなど)、ドライブでソフトクリーム、食後のコーヒー、ウッドデッキでのカレーパーティ、家族からの差入れ、家族との外出など、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康管理表に食事量、水分量の記入を行い、個々の状態の把握に努めている。また、必要に応じて、とろみや、一口大、おむすび等を提供して、なるべく食べていただけるように工夫をしている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア実施で清潔保持。自力で可能な方には声掛けを行っている。夜間の義歯つけ置き洗浄を実施。訪問歯科で個々の口腔内の状態を把握している。月に1回歯科医師による指導を受けている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	健康管理表での排泄のチェック、個々の排泄リズムを把握している。それを元に声掛けやトイレの誘導のタイミングを図っている。排泄の自立の可能性を視野に入れた介護を心掛けている。	健康管理表や排泄チェック表を活用してパターンを把握し、利用者一人ひとりに応じた言葉かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のラジオ体操や散歩などで体を動かす機会を設けている。水分補給にも配慮している。排便の状況を毎日訪問看護師に報告し、下剤等の使用の指示を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	増やしたり、トイレに毎回付き添うように改正している
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日できるようにしている。体調や、ご自身の希望と意思を尊重し、無理強いはいないようにしている。入浴を好まれない方への声掛けはタイミングや時間帯を変えたり、違うスタッフが声を掛けたりと工夫をしている。長湯が好きな方には、体調に影響が無い範囲で本人が満足されるまで入浴を楽しんでいただいている。	入浴は毎日、午前、午後可能で、週2、3日職員との会話を楽しみながらゆっくりと入浴できるように支援している。入浴したくない利用者には入浴時間を変更したり、声かけのタイミングや職員を交代するなどの工夫をしている。利用者の状態に合わせてシャワー浴、足浴などの部分浴、清拭、ベットでの手足浴など、一人ひとりに応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の毎日の体調をその都度観て、昼寝や静養を促している。また、室内照明や空調、寝具等もご自身の好みに配慮している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	カルテに個々の薬の説明書を添付、薬剤師作成の居宅療養管理指示の書類も綴じて、いつでも確認できるようにしている。また、薬の変更時の状態変化などにも速やかに、主治医・看護師との連携を図るようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方にとって馴染みで、喜びとなる趣味活動や、役割等で、その方らしい暮らしが続けられるように配慮している。また、馴染みのデイサービスに行って、気分転換を図られる。花を生けたり、ブレンダーの水遣りをしたり、カレンダーを毎日替えたりと、可能な限り、一人ひとり役割を持って生活していただいている。	季節の行事(節分、七夕の素麺流し、敬老会、クリスマス会)、ひな祭りに着物で写真撮影、テレビやラジオの視聴、ぬり絵、折り紙、ちぎり絵、貼り絵、紙工作、カレンダーづくり、たなばたかざりやクリスマスのリースづくり、ラジオ体操、ストレッチ体操、口腔体操、風船バレー、食事づくりゲーム(献立の食材を集める)、笑いヨガ、歌を歌う、ギター演奏やコーラスを聞く、脳トレ(計算、漢字、ことわざ、四字熟語)、お茶パックづくり、花を生ける、花器の水替、花壇の水やり、雑草取り、化粧、車イス移動の手伝い、カレンダーの日めくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、洗濯物の収納、シーツ交換、居室の掃除機かけ、食事の準備や片付けなど日々の暮らしを喜びや張り合いをもって過ごせるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	増やしたり、トイレに毎回付き添うように改正している
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの計画を立て、無理の無い範囲で外出をしていただき、気分転換や季節感、目の保養に努めている。また、ご家族と連携を取り、入居者が安心・安全に外出できるように支援している。	初詣や季節の花見(桜、つつじ、紫陽花、コスモス、彼岸花、紅葉など)、地域の夏祭り、道の駅へのドライブ、鯉のぼりの見物、着物喫茶などに出かけている。友人の送迎での日曜礼拝や事業所周辺の散歩、商店での買い物、馴染みの美容室の利用、家族の協力を得ての外出や墓参りなど、家族や地域の人と協力して日常的に外出できるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、個々の小遣いをご家族等からお預かりし、収支管理させていただいている。使用目的で必要がある場合はご家族に相談している。可能な方は職員と買い物へ行き、支払いの機会を作っている。〇〇を買ってきて等希望があればその都度、購入している。教会に行かれる方は毎回必要な額お渡しし、献金をされてこられる。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご自身で電話を掛けられたり、難しい方はお手伝いをしている。入居者宛の電話がかかってきた場合も、スムーズに対応できるように配慮している。手紙の投函等を支援し、自由にやりとりしていただいている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	段差や障害物がなく、安心・安全に車椅子や自力歩行できるよう配慮している。共有スペースにソファを置き、入居者が好きな時に自由に寛げ、室温や照明にも常に配慮し、居心地のいい空間作りを提供。季節のほり絵等の飾りで季節を感じていただいている。	居間兼食堂は大きな窓があり自然の光が差し込んで明るい。壁面には職員の季節の切り絵や利用者の作品を飾り、季節の花を活着している。食事用のテーブルや椅子、ソファを設置して、利用者は思い思いの居場所で過ごしている。対面式の台所からはご飯を炊く匂いがしたり、盛り付けや食器を洗う様子が伺え生活感がある。洗濯室は浴室の脱衣所と別になっており、整理整頓されて清潔感がある。車イス用のトイレは三枚扉で軽い力で開けやすくなっている。温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	増やしたり、トイレに毎回付き添うように改ざんしている
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは食事の際の自席が配置されているが、ソファを設置する事で、入居者が好きな時に自由に寛げる居心地のいい空間、他者交流の場となるように配慮している。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの品物や家具、仏壇等を持ち込まれる事で、その方らしい暮らしが続けられ、安心して穏やかに過ごされるように配慮している。	ベット、箆笥、机、いす、籐椅子、ハンガーラック、衣装ケース、鏡台、テレビ、ラジカセ、仏壇、写経の道具、衣類、ぬいぐるみ、化粧道具、日用品など、使い慣れたものや好みのものを持ち込んで、仏花や供え物、家族の写真、カレンダー、誕生日カード、自分の作品などを飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じてトイレや居室の目印を付けたり、ご自身の判断での行動が安全・安心に出来るように配慮している。出来る事はしていただき、出来ない事は寄り添うが、常に入居者の立場を尊重した生活を心掛けている。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム グッドスマイルズ

作成日: 令和元 年 5 月 10 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	4	自己評価及び、外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かす事が十分に出来ていない。	全ての職員が、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、全員で評価を活かすために話し合い、目標を達成する。	月例ミーティングの前に外部評価の結果を回覧し、6月の月例ミーティングで話し合いを行う。その後、月例ミーティングで達成状況を確認しながら目標を達成していく。	1年間
2	36	災害対策は施設内で定期的に行っているが、地域との協力体制が構築できていない。	地域との協力体制を構築する。	運営推進会議の参加者に協力を呼び掛け、災害訓練に参加してもらえるようにする。	1年間
3	35	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身に付けているとは言えない。	全職員が応急手当や初期対応の実践力を身に付ける。	救急救命士による研修を行ったが、参加していない職員もいるため、定期的に訓練を行っていく。	1年間
4	14	内部研修が充実しているとは言えない。外部研修への参加の機会が少ない。	月例ミーティングの他に、グッドスマイルズ単独での研修を増やす。外部研修の情報を職員に提供する。	定期的に、応急手当や離設対応、その他その時に起こっている問題に対して、グッドスマイルズ単独で研修を行う。外部研修の情報を月例ミーティングで提供する。	1年間
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。